

はじめてのG7 ドラゴン V

目次

○ 最初にスペシャルモードにするには	1ページ
○ 安心ロックをセットする時は	1
○ 最初から使用できるスペシャル機能	1
○ 特殊文字入力機能	1
○ チャンネルの確認	2
○ メモリー群番号自動呼び出し機能	2
○ メモリー待ち受けセット機能	2
○ 群番号吸い取り機能	3
○ チャンネル指定機能	4
○ チャンネルメモリー機能	4
○ 自局免許番号表示機能	4
○ 相手局免許番号表示機能	4
○ 相手局免許番号吸い取り機能	5
○ 免許番号製作機能	5
○ HOLD キー	5
○ ATIS信号カット機能	6
○ 群番号解読機能	6
○ プライオリティ機能	7
○ 解読群番一発モニター機能	7
○ 制御信号妨害機能	7
○ スキャンスピード切替機能	8
○ 全モードスキャン機能	8
○ メモリースキャン機能	8
○ 空きCHサーチ機能	8
○ 全モード待受機能	8

○ スペシャルサーチ機能	8
○ 自動リザーブ機能	8
○ 全群番号リザーブ機能	9
○ PTT自動リコール機能	9
○ タイマーリコール機能	9
○ 多群番号一括リコール機能	9

《その他特殊機能》

○ 目覚し時計機能	9
○ ストップウォッチ機能	10
○ フィーバーゲーム機能	10
○ 拡声器機能	10
○ サウンド機能	10
○ 広帯域モード機能	12

《その他HOLD機能》

○ タイマーカット機能	13
○ 全群番号待受機能	13
○ サイドワインダー (追っかけリセット) 機能	14
○ インターセプター (UFOへの妨害) 機能	14
○ ポケットベル機能	15
○ セミデュプレックス機能	15
○ 動作音の変更機能	15
○ 群番・CHロック機能	16
○ デジタル秘話機能	16
○ 居眠り防止機能	16
○ CH見回り機能	17

《その他特殊機能》

○ 他群番お知らせ機能	17
○ 切断信号機能	17

○ 送信・受信レベル切替機能	17
○ マイクキーの機能	18
○ モードの切替機能	18
○ 数字キーについて	18
○ CHについて	19
○ CH切替機能	20
○ 切断信号を受信した場合	20
○ 特殊オプション群番号機能	20
○ リザーブメモリー機能	21
○ リセット中の留守番機能	21
○ リセット中の群番戻し機能	21
○ スペシャルサーチリザーブ機能	22
○ リザーブのしくみ	22
○ リザーブを呼び出す	22
○ リザーブに記憶させる	22
○ HOLD の機能一覧表	24
○ 送信中の特殊キー	25
○ MON キーのCH指定方法	25
○ M キーの機能一覧表	26
○ 特殊機能で使用されるCHメモリーとその機能	26
○ どうすれば?	27
○ 表示状態の説明	28

§ G7 ドラゴンV §

本書は、ドラゴンVを初めて使用される方のために書かれています。

なお、群番号の設定や、メモリーのさせ方、一部のディスプレイの意味などは、ノーマルの取り扱い説明書と同一ですので、そちらもあわせて御覧下さい。

本機は、スペシャルモードとノーマルモードが共存しています。
スペシャル状態から安心ロックを作動させると、ノーマル機として作動します。
スペシャル機に戻すには暗証番号がわからないと動作しません。

1 2 3 4 5

1. 最初にスペシャルモードにするのは

(M) + (O) + (C) + [暗証番号] + (HOLD) + (M)

すべて入力し終わりますと [05Eと-] の表示が出ますので、以降はスペシャル機として、動作できます。
途中で打ち間違えた場合、最初の桁から打ち直して下さい。

この時、ATIS ROMカートリッジが挿入されていれば、自局の免許番号はその免許番号になります。

2. 安心ロックをセットする時は

(HOLD) キーを6秒間押し続けるか、同時に4つ以上のボタンを押すとセットされます。

なお、HOLD + REMOTEは、別の機能に割り当てられています。間違えないで下さい。

3. 最初から使用できるスペシャル機能

A. モニターに移る際、CH表示をします。 例、 [1 32] ダウンモードの 32CH

B. モニターから、PTTを押すことにより、割り込み送信できます。

C. 5分、1分の通話制限はタイマーカットの動作にかかわらずありません。

ただし、相手の局が通話制限状態になったとき、相手局だけリセットしてしまわないように、表示パネルの

[1-MIN] [LOCAL] のランプに注意して下さい。

D. リセット、モニター、レディ、送信中のどの状態からでも、メモリー、群番号の打ち替えができます。

E. マイクのキーで、CHのアップ、ダウン、モニターサーチ、モードの変更、メモリーの切り換え、連続リコール、パワー表示、温度表示などの多彩な機能が実現できます。熟練すれば、本体にはほとんど触れなくてすむでしょう。

4. 特殊文字入力機能 (0から9の数字以外の特殊文字番号が入力できます。"C"に続く次のキーです。)

(CALL) = [R] (HOLD) = → [b] (M) = → [C]

マイクのREM = → [d] マイクのSHIFT = → [E] マイクのEND = → [F]

例 GBの真っ黒群番号 (C) + (CALL) キーを5回 = → [rRRRRR]

- A. リセット状態の時、マイクのリモートキーにより、すべてのメモリー、及び特殊群コードの呼び出しができます。呼び出される順序は、メモリー0 ⇒ 1 ⇒ 2 ⇒ … ⇒ 9 ⇒ -A-cod ⇒ -b-cod ⇒ -L-cod ⇒ -H-cod ⇒ -P-cod ⇒ -E-cod ⇒ 00000 (ゼロファイブ) の順です。
00000 (ゼロファイブ) は、メモリーされていなくても、リセット中は呼び出しを行うことができます。
- B. 呼び出し、着信の時、群番号とCHを交互に表示します。

5. チャンネルの確認 (モニター、レディ、送信中にCHの確認ができます。 **CALL** キーを押すと表示されます。)
6. メモリー群番号自動呼び出し機能 (リセット状態の時、CALLに続いてメモリーキーを押すことにより、自動呼び出しができます。)

- CALL** ⇒ **c00000** + **0** から **9E** までのキー ⇒ そのメモリーされている群番号で呼び出します。
- CALL** + **C** ⇒ **c00000** CQ (ZERO5)
- CALL** + **CALL** ⇒ **cR-cod** Aコード (F0008)
- CALL** + **HOLD** ⇒ **cb-cod** Bコード (F0009)
- CALL** + **M** ⇒ **cL-cod** 近接車通信用 (F0005)
- CALL** + **REMOTE** ⇒ **cH-cod** 高速道路通信用 (F0003)
- CALL** + **SHIFT** ⇒ **cP-cod** 交通情報用群番号 (F0000)
- CALL** + **マイクEND** ⇒ **cE-cod** 緊急通信用 (FF000)

7. メモリー待ち受けセット機能 (すべてのメモリー、特殊群番号、免許番号の待ち受けセット、解除が独立して行えます。)

Mキーに続いて、CALLキーを押しますと、待ち受けのセット、解除のモードになります。

M + **CALL** ⇒ **56789** 例として、左記のように表示されれば、4から9までのメモリー群番号が待ち受けセットとなっています。

この状態から1から9までの数字キーを押すと、待ち受け設定の数字ランプが点燈、消燈を交互に繰り返します。基本的にはノーマルの設定と一緒にするので、ノーマルの説明書もあわせて参照して下さい。

また、常時待ち受けが確認できるように、同時にパネル左下のA、b、L、H、P、E、も点燈します。

点燈した状態で、そのメモリーに記憶されている群番号の待ち受けがセットされます。

メモリー0の待ち受けの場合は、1のランプが点滅します。どの文字がどの待ち受けになっているか、動作させて確認しておくとい良いでしょう。

Aの点燈	=	メモリー4の待ち受け
b "	=	" 5 "
L "	=	" 6 "
H "	=	" 7 "
P "	=	" 8 "
E "	=	" 9 "
1の点滅	=	" 0 "

免許番号での待ち受けは、ドラゴンVでは群番号の待ち受けと同時にできるようになりました。免許番号で待ち受けたい場合、その免許番号を自分の免許番号にセットし、待ち受け設定のとき“C”キーを押します。

M + **CALL** + **C** ⇒ **Rt15** と表示して、しばらくすると群番号の表示に戻ります。

また、特殊群番号の待ち受けの場合は下記の要領で設定します。

M + **CALL** + **CALL** ⇒ A マークが点滅します。

M + **CALL** + **HOLD** ⇒ b マークが点滅します。

M + **CALL** + **M** ⇒ L マークが点滅します。

M + **CALL** + **マイクREMOTE** ⇒ H マークが点滅します。

M + **CALL** + **マイクSHIFT** ⇒ P マークが点滅します。

M + **CALL** + **マイクEND** ⇒ E マークが点滅します。

0、1、4～9 と A～Eを同時に設定した場合は、1とA～Eの点滅が早くなります。

待ち受けのセットが終わったら、本体の **END** キーを押して設定モードを終わります。また、6秒間入力がない場合、自動的に設定モードを終わります。いずれの場合も点燈した状態で待ち受けセットとなります。また、自分で最後に表示した群番号は、上記の操作に関係なく常に待ち受け状態となります。メモリー0からメモリー9まで、免許番号と特殊群番号6種類で、あわせて17局待ち受けです。

《ワンポイント》

ドラゴンVでは、全群待ちが二通りあります。ひとつは待ち受け設定している群番号、免許番号を無視する待ち方です。後程のサイドウィンダー機能などとセットする特殊な待ち受けです。この場合は、待ち受けのセットが反対に呼ばれないセットの意味になります。

8. 群番号吸い取り機能 (群番号解読の時、表示された群番号を、自分のメモリーにコピーすることができます。)

コピーしたい群番号が表示されたら、以下の操作を行います。

HOLD + **HOLD** ⇒ **[COPY-]** + **0** から **9E** 又は **C** (0の場合) ⇒ **[COPY0]**

この例では、メモリー0に、コピーしていますが、以前に記憶されていたメモリーは、消されます。消してもいいメモリーナンバーを選んで押して下さい。

また、ドラゴンVでは、一時的に使用したいが、メモリーには採っておかなくても良い場合、**C** のキーが使用できます。次にリセットした場合、この群番号は失われます。モニターからの割り込み通話などのとき便利です。

《ワンポイント》

次のような場合使用します。

ある日、車で移動中、モニターサーチを掛けていたら、お馴染みの「Aさん」の変調が聞こえました。

「いやあ！ルート○×△はガッチャマンで大QRだァ〜！」

(エッ！○×△じゃ、いま走っているルートだ！) ふと無線機を見ると、いつもの群番じゃない。

(ありゃ、詳しくQRレポート欲しいけど、群番違いじゃツレイだし……)

(なんだ？見たことない群番だなァ。えっと……消してもいいメモリーはと……)

はい、こんな時には群番吸い取りで、「C」を使いましょう。

HOLD + **HOLD** + **C** ⇒ **[Aさんと同じ群番号]** そして、PTTを握って

(Aさ〜ん、おひさかた〜。ガッチャマン、どこで?)

「おや、Bさん。えっとQRの先頭は▲□●だよ！滑りセーン！」

(な〜んだ、反対方向かァ、レポートあんがと〜、移動お気をつけて！)

「はいはい〜、FBにおかせぎ」……

END ⇒ **[元の群番号]** (この時、Aさんの群番は跡形もなく消えます。)

9. チャンネル指定機能 (チャンネル・モードの指定が、キー入力により行えます。)

例 50CHにセットする。 $C + 5b + 0 + MON \Rightarrow 0\ 50$

例 123CHにセットする。 $C + 1M + 2M + 3M + MON \Rightarrow 0\ 123$

CHが2桁の場合、キー入力も2桁で行えます。

例 ダウンモードの40CHにセットする。 $C + 1M + 0 + 4A + 0 + MON \Rightarrow 1\ 40$ 4桁入力の場合、先頭の桁はモード指定になります。

10. チャンネルメモリー機能 (チャンネルのメモリー、呼び出しができます。ドラゴンVは、10個のチャンネルメモリーを持っています。)

○メモリーする。

まず、記憶させたいCHに、セットします。

例 100CHにセットする。 $C + 1M + 0 + 0 + MON \Rightarrow 0\ 100$

100CHでモニター状態となります。

その後、例としてCHメモリー1に記憶します。

$M + HOLD \Rightarrow CHSEt + 1M \Rightarrow SEt-1$ 100CHがCHメモリー1にセットされました。

また、通話状態(レディ)のとき、そのCHをメモリーしておきたい場合には、上記操作のほかに、以下に示す方法でも行えます。(50CHで通話していたとします。)

$MON \Rightarrow CHSEt + 2M \Rightarrow SEt-2$ 通話していた50CHがCHメモリー2にセットされました。

○メモリーしているCHに移る。(メモリーを呼び出す。)

先程、CHメモリー1に入れた、100CHを呼び出してみます。

$M + MON \Rightarrow SEt-- + 1M \Rightarrow 0\ 100$ 100CHでモニター状態となる。

また、CH設定と似た方法でも行えます。CHメモリー2を呼び出してみます。

$C + 2M + MON \Rightarrow 0\ 50$ 50CHでモニター状態となる。

ここで注意する点は、CH指定のときは、2、3または4桁入力でしたが、1桁入力の場合は、CHメモリーの指定と解釈します。メモリーセット、呼び出しとも、0から9までの10CHのCHメモリーが使用できます。リセット、モニター、レディ、送信中のいずれの場合からでもCHの移動が瞬時に行えます。また、設定した時のモードも同時に記憶しています。CHメモリー呼び出し時にも、そのモードに自動的に移ります。

11. 自局免許番号機能 (現在使用している自局の免許番号を表示させます。)

$HOLD + HOLD \Rightarrow COPY- + MON \Rightarrow d-0000$

右記のように、3回にわけて表示されます。

↓ d-0000

どうやら、私の機械には、ATIS ROMが入っていないようです。

↓ d_0000

12. 相手局免許番号表示機能

受信した、ATIS信号の中の免許番号を表示させます。

$HOLD + HOLD \Rightarrow COPY- + CALL \Rightarrow n-16Cd$

この人は、ちゃんとATISの中に免許番号が

↓ n-2214

あるようです。でも少しおかしいかな??

↓ n-3483

13. 相手局免許番号吸い取り機能

受信した、ATIS信号の中の免許番号を自局のものにしてしまいます。

(HOLD) + (HOLD) = → [COPY-] + (HOLD) = → [c-16Cd]

吸い取った免許番号を表示します。

↓ [c-2214]

先程のちょっとおかしな免許番号をいただきました。

↓ [c-34A3]

14. 免許番号製作機能

自局の免許番号を作りだしてしまいます。

(M) + (7)REMOTE ⇒ [n-] + (1M) + (2M) + (3M) + (4A) ⇒ [n-1234]

⇒ [n-] + (5b) + (6L) + (7H) + (8P) ⇒ [n-5678]

⇒ [n-] + (9E) + (CALL) + (HOLD) + (M) ⇒ [n-9AbC]

これで、免許番号は、123456789ABCとなりました。

キー入力の際のアルファベット入力は、群番号の場合と同じです。

お互いに、ドラゴンV同士ですと、電話番号なども1回のATIS信号で送れます。各自、活用方法などを考えてみて下さい。

なお、くれぐれも悪用しないで下さい。！！

《ワンポイント》

応用編 その1 免許番号で待ち受ける

(M) + (CALL) + (C) · (C) …… [REIS] 表示後、元の群番

免許番号だけで待ち受けしたい場合、他の待ち受けは解除しておかなければなりません。

応用編 その2 免許番号で妨害する

その1と同じ設定をして、サイドワインダーをかけます。

(HOLD) + (CALL) + (CALL) ⇒ [oCe-U_] · [oCe- _R] · [oCe-UA] ..

動作としては、同じ免許番号で呼ばれ、その時の群番号と暗証番号を記憶し、呼び出したCHへ移ってから、切断信号を1回だけ送信します。

せっかくリコール、または呼び出しで、そのCHに上がったとたん、切断信号を受信することになり、すぐさまリセットするわけです。

(もちろん、新モード機でノーマルの無線機に限ります。)

★ HOLDキー

信和製の無線機は初代905Gより、このHOLDキーが重要な機能として今に受け継がれています。

(本当にスペシャル改造を阻止したいなら、キーの名前は変わっていたでしょう。)

●HOLDの操作方法 その1 HOLD+5~8及びその他

(HOLD) を押しますと [o56789] の様な表示が表われます。これは群番号ではありません。

↑この時、表示の左端の桁は数字の表示となっています。現在のモードです。

この点について注目しておいて下さい。

この状態から、HOLD 1回目でセット、解除できる機能の操作が行えます。

●HOLDの操作方法 その2 HOLD+1~4について

上記に続いて、1~4のキーを押しますと、今までモードが表示されていた部分が、Hに変わります。

本機は、機能が増えたため、HOLD 1~4は二段設定になっています。HOLD 1~4まで、それぞれに1~4のセットを設定しています。

HOLD + **1M** → **H 1** ←モードの表示だった左の桁に、Hの文字が表示されます。この時、二回目のキーを受け付けます。また、“END”キーで中止できます。

HOLD + **2M** → **H 2**
HOLD + **3M** → **H 3** 上記と同様に、1つのキーの中に、4つの機能がセットされるようになっています。

HOLD + **4A** → **H Sub** このモードは、無線機能とは離れた設定をします。
 (ゲーム、目覚ましなど)

●HOLD 二段操作の例 (素早く続けて操作します。)

HOLD → **0** = HOLD + 5~9は、セットなし。
1M → **H 1** = HOLD + 1のなかは、セットなし。
1M → **H 1 1** = HOLD + 1 + 1が、セットされた。
3M → **H 1 1 3** = HOLD + 1 + 3が、セットされた。
1M → **H 1 3** = HOLD + 1 + 1が、解除された。
END → **群番号表示** = HOLDの作業から抜けた。

上記のような操作手順により、HOLD 二段セットを行ないます。

●スペシャル機能をすべてOFFとする

ドラゴンVを早く使いこなしていただくためには、一つ一つの機能を十分理解していただくことと思います。そこで、すべての機能をOFFとしてから操作されるとよいでしょう。

HOLD → **0 5 6 7 8 9** = 5~9のどれかが表示されている場合、そのキーを押して表示を消します。

END → **群番号表示** = 5~9のすべてが消えたところで“END”キーを押しますと、HOLDの操作から抜けます。

上記と同様に、二段目のHOLDの機能もOFFにしてから使用されるとよいでしょう。

HOLD + **1M** → **H 1 1 2 3 4** = HOLD+1の中のどれかが表示されている場合、そのキーを押して表示を消します。

END → **群番号表示** = HOLD+1の中がすべて消えたところで、“END”キーで、HOLDの状態を抜けます。

HOLD + **2M** → **H 2 1 2 3 4** = HOLD+2の中の場合も同様に行います。

以上の操作を、HOLD+3についても行いますと、とりあえず設定解除のできるスペシャル機能については、すべてOFFとなります。

15. ATIS 信号カット機能

PTTを握った時、離れた時、1分に1回送信されるATIS信号を止めてしまう機能です。

HOLD + **5b** → **0 5** セット **HOLD** + **5b** → **0** 解除
 セットされていても、リコールの時は送信されますので呼び出しはできます。

16. 群番号の解説機能

受信したATIS信号の中の群番号を表示させます。

HOLD + **6L** → **0 6** セット **HOLD** + **6L** → **0** 解除

UFOの使用している特殊な信号も解説できます。この場合、左の桁の表示が“d”ではなく“U”となります。

UFOでは、送信時の免許番号に、ある特定のデータを乗せて交換を行っているようです。興味のある方は、UFOを受信した際に、免許番号も確認されると良いでしょう。
 なお、ノーマル機のATIS信号を受けた時、相手が通話制限などで残り時間のデータを送信している場合、その残り時間を表示します。ただし、同一の群番号の時のみです。
 表示のでかたなどは、ノーマルの取り扱い説明書を参照して下さい。

17. プライオリティ機能 (留守番機能)

CHメモリー0にセットしたCHに誰かが出てきた時に、“C-MEM”のランプを点滅させると同時に、“ピーピー”と動作音を出して使用中であることを知らせます。
 約1分に1回、瞬間的にそのCHを受信して判断しています。リセット、通話受信、モニター中に動作します。(送信、サーチ中には行いません。)

HOLD + 7H → セット **HOLD + 7H** → 解除

《ワンポイント》

もっと便利に使う方法

1. 予めCHメモリー0には、自分のワッチしたいCHをメモしておきます。プライオリティは解除のままにします。ワッチCHを、例として80CHにしましょう。
2. 50CHの良く知っているローカルさんに呼ばれました。面白そうなので、ブレイクインしました。この時、初めてプライオリティをセットします。
3. しばらくダベっていると、“C-MEM”のランプが点滅しました。誰か80CHに出てきています。
4. 「誰か呼んでるから、ショート×！」としゃべって、おもむろに本体の“END”キーを2回押します。
5. と？あ～ら不思議、80CHでモニター状態になりました。でも全然知らない人みたいです。
6. 「ちェ！しらね～やつか」と、また、おもむろに“END”キーを2回押します。
7. おやおや？ちゃんと元の50CHに戻ってきました。
 という具合に活用します。どこかのCHに移ってからセットするところがミソです。

注意点 “END”キーでモニター移動するため、HOLD+8と一緒にセットできません。
 “C-MEM”のランプ点滅機能だけを見る場合は可能です。(HOLD+8を優先する場合があります。)

18. 解説群番一発モニター機能

リセット中に解説された群番号のCHに、即モニターできる機能です。解説表示中に、本体の“END”キーを押して下さい。解説された群番号が呼び出したCHをモニターできます。

HOLD + 8P → セット **HOLD + 8P** → 解除

《ワンポイント》

実際の操作法

1. HOLD+6をセットします。(群番号が見えなければ話しになりません。当然群番解説セットです。)
2. HOLD+8をセットしたら、リセット待機します。
3. 混雑している地域では、めまぐるしい程、群番号が変わってゆくでしょう。
4. キャッチしたい群番号が「出たッ！」その瞬間に、本体の“END”キーを押します。
5. 捕まえた群番号がリコールか呼び出しをしたCHに、モニター状態で飛び込んでいるはずですが。
6. “PTT”を押せば、キャッチしたその群番号で通話が開始できます。

注意点 プライオリティ (HOLD+7) とは、なるべく同時にセットしないで下さい。

19. 制御信号妨害機能

制御CHのATIS信号に妨害を与える機能です。信号に合わせて混信を与えますので、リコールが打てなくなりません。リセットの時だけ動作します。

HOLD + 9E → セット **HOLD + 9E** → 解除

《ワンポイント》

注意点

1. 連続リコールなどの場合は、タイミング的に合わせきれず、捕まえそこねが発生します。
2. 都心部では、非常に多くの制御信号が飛び交っています。ですから、全体の送信に占める時間も長くなりますので、発見される可能性も大きくなります。また送信している訳ですから、いずれにせよ終段モジュールの劣化も激しくなります。いずれにせよ、長時間の妨害はやめましょう。

20. スキャンスピード切替機能

モニターサーチのスピードを変えます。セットで約80CH/8秒、解除で約80CH/3秒です。

HOLD + **1M** + **1M** → **H 1 1** 解除の側が高速です!! 御注意下さい。

21. 全モードスキャン機能

モニターサーチの時、1回りしてCHの最初になると、モードを一つ進めます。これにより、すべてのモードがつかえたようになり、サーチを行います。

メモリスキャンの場合には、全てのモードに対してメモリーCHスキャンをするようになります。

HOLD + **1M** + **2M** → **H 1 2**

22. メモリスキャン機能

CHの順番のスキャンではなく、CHメモリーのスキャンを行います。ドラゴンVには10個のCHメモリーがありますが、CHメモリーについては、10項を参照下さい。

連続モードがセットされている場合、各モードごとの各CHをサーチしてゆきます。解除の場合は、各CHメモリーが記憶しているモードに順次切り変わります。

HOLD + **1M** + **3M** → **H 1 3**

23. 空きチャンネルサーチ機能

スキャンを空いているCHで止めるようにします。あくまで機械の空きCHレベルにより判断しますので、遠くで使用している場合、また、ブレイクタイムの時などで使用中のCHで止まることもあります。

HOLD + **1M** + **4A** → **H 1 4**

24. 全モード待受機能

すべてのモードの制御CHをリセット中にスキャンしながら待ち受けします。一度に8つのCHを聞いている訳ではないので、着信率は悪化します。モードが切り変わる状態を先頭の桁に表示します。

全モード待ち受けをしている局を呼び出す時には連続リコールを使用して下さい。

HOLD + **2M** + **2M** → **H 2 1** → **○群番号表示** .. **㊦群番号表示**

25. スペシャルサーチ機能

モニターサーチをする際に受信した局と、自分の待ち受けを比較しながら行います。

信号の入感するCHでは30秒間ATIS信号を待ちますが、信号が受信できなければ次のCHにサーチを続けます。信号が受信できたら群番号を確認し、待ち受けと違えば次のCHへ移ります。

次項の自動リザーブと組み合わせると留守番サーチもできます。

HOLD + **2M** + **2M** → **H 2 2**

26. 自動リザーブ機能

本機には、群番メモリー、CHメモリーの他に、リザーブメモリーを持っています。

リザーブメモリーとは、群番号、CHのメモリーとは独立して群番号とCHをペアでメモリーしておけます。

ここでは、自動的にこのメモリーに機械の判断でデータを記憶させてしまう機能です。

以下の(一致群・全群)機能と組み合わせで使用します。

HOLD + **2M** + **3M** → **H 2 3**

なお、次に示す全群、一致群番号のリザーブ機能は、この機能がセットされて始めて使用できます。リザーブメモリーは、全部で8個ありますが、9個目を記憶させると1個目が消えてしまいます。別項目に、リザーブメモリーについての詳細を記していますので、そちらを参照して下さい。

27. 全群番号リザーブ機能

前項の自動リザーブと組み合わせて使用します。セットすると、リセット中、スペシャルサーチ中に受信したすべての群番号とそのCHをリザーブに記憶してゆきます。

また、解除されている場合は、待ち受けセットされている群番号と一致した信号だけを記憶してゆきます。

HOLD + **2M** + **4A** → **H2 34**

HOLD2+3、2+4をセットしてリセット待ち機しますと、群番号解読で次々と変わってゆく群番号を、“7”のキーでリザーブを後戻りさせて、そのCHに移動することができます。

28. PTT自動リコール機能

PTTを離れた時に、自動的にリコールを送信する機能です。

次に示す、PTTリコールタイマー制限と関係がありますので、以下の項目と組み合わせて使用して下さい。

HOLD + **3M** + **1M** → **H3 1**

このセットだけの場合ですと、PTTを握って1分以上たたない場合にはリコールをしません。

以下の設定をしますと、このタイマーに関係なく、つねにPTTを離れた時にリコールをします。

HOLD + **3M** + **2M** → **H3 12**

29. タイマーリコール機能

通話中(レディ)、自動的に、1分、または3分間ごとにリコールを打つ機能です。

HOLD + **3M** + **3M** → **H3 3**

このセットだけの場合ですと、3分間ごとにリコールになります。以下の設定をしますと、1分間ごとのリコールになります。

HOLD + **3M** + **2M** → **H3 23** (要はいっぱい打ちたい場合“2”をセット)

30. 多群番一括リコール機能

待ち受け指定をしている群番号を、すべてリコールする機能です。待ち受け設定は、7項に記してありますのでそちらを参照して下さい。呼び出すCHは、リコールを打ったCHになります。

HOLD + **3M** + **4A** → **H3 4**

《ワンポイント》

流れる群番

1. メモリー0からメモリー9までに1桁づつずらした群番号をメモリーさせます。
2. 待ち受けを0から9まで全てセットします。
3. リコールを打ちますと、まるで群番号が流れていくように見えます。

◎その他の特殊機能(ノーマルの取り扱い説明書にもありますので参照して下さい。)

31. 目覚まし時計機能

ノーマルにもある目覚まし時計の機能です。操作方法も同じです。

HOLD + **4A** → **H SUB** + **8P** = → **-**

= → + **C** + **0** + **8P** + **0** + **0** → **08-00**

上記の例では、8時間後に、ピーピーという音を発して、時間になったことを知らせます。無線機の機能に戻るには、マイクの“END”キーを押します。

32. ストップウォッチ機能

ノーマルにある機能と同一です。

(HOLD) + (4A) → (H SUB) + (7H) → 00000

マイクの“PTT”でスタート、ストップ、“REMOTE”でラップ、クリアです。無線機の機能に戻るには、マイク、または本体の“END”キーを押します。

33. フィーバーゲーム機能

ノーマルにある機能と同一です。

(HOLD) + (4A) → (H SUB) + (4A) → -999-

マイクの“PTT”でスタート、ストップします。無線機の機能に戻るには、マイク、または本体の“END”キーを押します。

34. 拡声器(PA)機能

外部に拡声器用スピーカーをつけた場合、拡声器機能が行えます。

(HOLD) + (4A) → (H SUB) + (5b) → PA_

PTTを押してマイクに向かって話して下さい。無線機の機能に戻るには、マイク、または本体の“END”キーを押します。

35. サウンド機能(バックミュージック)

以下の操作で、サウンドとして使用できます。

(HOLD) + (4A) → (H SUB) + (6L) → Sound

ドラゴンVには、10局のスタンバイコールが使える音楽機能があります。

マイクを握った時、離れた時、その両方と、自由に選べます。もちろんミュージックOFFもできます。

サウンド機能使用時は、PTTがロック式に設定されます。1度PTTを押すと送信し、もう一度押すと受信になります。さらに、送信状態から握り込みますと、BGMが流れます。

また、サウンド機能をONにして5分以上連続送信しますと、送信が止まります。

(居眠り防止機能が設定されていると、その設定時間になります。)

- ④ ドラゴンVは、ロックの位置からさらに握り込むとメロディが流れるようになっています。したがって、スタンバイコールを使用する時は、握り込む時間でスタンバイコールを流す時間を自由に調整することができます。

(HOLD) + (4A) + (6L) => Sound + (1M) ~ (4A) の数字キーで決定。

- 数字キーが“1”の場合 (全10曲オーケストラ)
記憶しているメロディーを一通り聞けます。(10曲)

(HOLD) + (4A) + (6L) => Sound + (1M) => Sd--0 ... Sd--9
(音楽とともに右端の数字が変化する)

- 数字キーが“2”の場合 (演奏曲セット)
例: 1番のメロディーをセットする。

(HOLD) + (4A) + (6L) => Sound + (2M) => SdSEL no--? で

(1M) を押す no--? さらに、0~9の数字を押してメロディを選択する事が可能です。

↑
ここは、0~9の数字が出る。

- 数字キーが“3”の場合 (スタンバイコールのセット)

(HOLD) + (4A) + (6L) => Sound + (3M) => SdPoS => _ _ _

(初設定は、NC)

この時の表示は、次の3つの表示のうちのどれかです。マイクを握ると...

1 0 _ _ _ FC (フロントコール) マイクを握った時に鳴る。

- 3 o --- o WC (トイレではない、ダブルコール) マイクを握ったとき、離れたとき両方鳴る。
- 0 --- NC (ノーコール)

BC (バックコール) はありません。FC (フロントコール) とWC (ダブルコール) のみです。バックコールを使いたい時は、Wコールに設定してPTTを離す長さで調整して下さい。たとえば、マイクを握る時は短く握り、離す時は少し長く握り込めばバックコールになります。
 さらにドラゴンVには、スタンバイコールを自由に作れる作曲機能もあります。
 あなたも迷作曲家になって作曲してみても・・・ (インゼイ ガッポリ ビルが建つ……かも)

(HOLD) + (4A) + (6L) => [Sound] + (4A) => [SdEdt] と表示して作曲機能へ入る。

53 100
 ↑↑↑
 仮に ABC として、説明します。

53 100 点減している数字が変更可能
 ↑↑↑ (0~7で打ち替え)

この3つの数字の内1つが点減する。(9で変更箇所移動)

ワンポイント
 CPUは、右2桁の数字順に音楽を演奏していきます。

53 100 **(CALL)** で1つ進める **(MON)** : 編集中の音をテスト演奏する。
 ↑↑ **(HOLD)** で1つ戻る **(END)** : 編集終了

音楽メモリーの演奏時間は、音楽によって変わります。

- A : 音階 音楽終了は、“7”です。“0”は、無音です。
- B : 1、2、3、4、5、6、7 でド～シまでの音階がつけられます。
- C : 0、1、2、3 は音の長さ 0は短く 3は長く。

(8P) , **(M)** , **(C)** のボタンを押した時

(8P) = 01300 02301 03302 とメロディを作ったとする。
 コピー機能 ↑ここで 8 のボタンを押す。

01300 02301 02302 となる。

(M) = 01300 02301 03302 04303 05304
 インサート機能 ↑ここで M のボタンを押す。

01300 02301 02302 03303 04304 05305
 となる。

(C) = 01300 02301 03302 04303 05304
 デリート機能 ↑ここで C のボタンを押す。

01300 03301 04302 05303 となる。

スタンバイコールの演奏スピードの調整は、001.002.003 等無音の部分音を音の間にいれたり、同じ音を、続けて入れて作って下さい。但し、あまりゆっくり演奏すると、曲が途中で終わってしまいます。

○ **(HOLD) + (4A) + (6L) + (5b) + (0) ~ (2M)** ノーマルからスペシャルへ切り替えた時の音楽を変更する機能。

36. 広帯域モード機能（自動車電話帯）

パーソナルのCHにとらわれることなく、周波数の上下で使用するモードです。

HOLD + **4A** → **h SUB** + **0** → **PHONE**

この設定を行った場合、パーソナル無線機としては、以下の機能がなくなります。
基本的には、ただの無線機になります。パーソナルでの制限、機能などは使用できません。

- A. 860MHzから919.9875MHzまでを連続カバーします。4000CHですが、無線機の性能により使用できる範囲は限定されます。
- B. CH指定、群番指定は関係ありません。
- C. ATIS信号が出ません。リコールも出来ません。
- D. パーソナルの機能に戻る場合“END”キー2回押します。帯域設定は失われます。

周波数表示例 **903012** ⇒ 903.0125MHz

T-LIM ⇒ 点灯時は0.5KHzを意味します。

KEY ⇒ “KEY”点灯時はPLLがアンロックしています。（使用できません。）

- E. 12.5/25/100KHz又は1MHzのアップ/ダウンで周波数を移動できます。
- F. 12.5/25KHzで、アップ/ダウンのサーチができます。
- G. 使用する帯域を、1MHz毎に設定できます。

キーパネルの各機能		
12.5KHzダウン 1M 押しっぱなしでサーチ	1MHzアップ 2M	12.5KHzアップ 3M 押しっぱなしでサーチ
25KHzダウン 4A 押しっぱなしでサーチ	1MHzダウン 5b	25KHzアップ 6L 押しっぱなしでサーチ
100KHzダウン 7H	帯域下限アップ 8P	100KHzアップ 9E
帯域幅ダウン 0	帯域下限ダウン C	帯域幅アップ M

◎ 使用する帯域を設定できます。

広帯域モードでは、無線機の性能限界を越えた使用方法ですので、1台1台の機種により、その使用できる範囲が異なります。また、例として自動車電話のみを受信したい場合などは、その他の周波数は必要ないわけで、サーチなどの場合、ムダな部分が多くなります。

そこで、使用する周波数を限定できる機能を設けてあります。

8P ⇒ 使用する最低周波数を高い方向へ変更します。

C ⇒ 使用する最低周波数を低い方向へ変更します。

0 ⇒ 使用する帯域を狭めます。

M = → 使用する帯域を広げます。

これらの操作を行った場合、設定状態を表示します。

例 **80-15** この場合は、880MHzから15MHz幅ですから、880.0000 → 894.9875MHz が使用可能です。主に電話の受信を目的とした設定になります。

《ワンポイント》

サーチはダウンを使用したほうがPLLロック幅を広くとれるようです。

● その他の HOLD 機能

37. タイマーカット機能

元々、タイマーを動作させようがさせまいが、ドラゴンVには通話の時間制限はありません。この機能は、単にタイマーを止めるだけではなく、使用状況に応じて機能がさまざまに変化します。

HOLD + **M** → **0CUt** タイマーカットON (再度でOFF) **0t-0n**

同時に、パネルの“T-LIM”ランプが点燈、消燈します。

A. 呼び出し、及び着信の時

タイマーカットがセットされている場合は、補足（呼び出しや着信で表示が点滅している時）の後、自動的にレディモードになります。

タイマー動作セットの場合には、30秒間補足状態のあとリセットします。またはこの間に“HOLD”、“REMOTE”、“PTT”などで、レディモードに固定することもできます。

B. 固定モニターの時（固定モニターとは、CH指定や、リセットより1回目のモニターキーでなる状態）

タイマーカットがセットされている場合には、リセットしない限りそのCHにいます。

タイマー動作セットの場合には、なにも受信しなくなってから10分たつと、自動的にリセットします。

C. モニタースキャンの時

タイマーカットがセットされている場合には、入感のあったCHで固定モニターになります。

タイマー動作の場合には、入感のあったCHを15分間傍受し、続けて次のCHにスキャンを続行します。

ただし、スペシャルサーチとは違い、ATIS信号を受信してもすぐにCHが変わることはありません。

（スペシャルサーチがセットされていれば、ATIS信号の判断を行います。）

この場合も、“HOLD”、“REMOTE”、“PTT”により、CHを固定することができます。

D. モニターから、群番号一致の場合には、5分間の補足状態があります。

タイマーカットがセットされている場合には、レディモードに移ります。

タイマー動作の状態、なおかつスペシャルサーチがONの時には、5分間の補足状態のあと、スキャン状態に戻ります。

タイマー動作の状態の時は、5分間の補足状態から固定モニターに移ります。なお、固定モニターでは、無信号状態のとき、15分間でリセットしますので、なにかの間違いにより呼び出された時でも、トータル20分間でリセットに戻るようになります。

E. リセットから、“PTT”や“CALL” + “なにかのキー”で通話CHに移る時。

タイマーカットがセットされている場合には、特に変化はありません。

タイマー動作の状態では、1回目の発呼信号は送信しません。しかし、2回目に“PTT”を押す時にだけ、PTTによる自動リコールを行います。この機能により、たまたま開いたCHが使用中であっても、そのままリセットすれば、不要な呼び出しを減らすことができます。

38. 全群番号の待受機能

HOLD + **MON** · **MON** …… → **0RLL** **0n-RLL** **0CUU** …

A. 呼び出し、リコールを行っているすべての信号に対して受付を行います。

0RLL モニターや通話が終わってリセット状態になった時にも表示されます。

B. 待ち受けに入っている群番号、免許番号以外のすべての信号に対して受付を行います。

o n - R L L (着信拒否) 同様に、リセット状態になった時、表示されます。

C. 通常の待ち受けです。

o C U n 解除の状態ですので、リセットになった時は、群番表示になります。

39. サイドワインダー／インターセプター (追っかけリセット／追っかけ妨害)

呼び出し、リコールを行っている局のいるCHへ、切断信号又は、UFO妨害を送信します。

HOLD + **CALL** · **CALL** …… → **o C t - U _** **o C t - _ R** **o C t - U R** …

◎ UFO への妨害 その1

U の表示が点灯している場合 ⇒ インターセプターON

UFOでは、UFOデジタル通信というモードをもっていますが、このシステムには問題があります。

1. ATIS信号の中には、次に移るCHのデータが含まれているため、不用意に送信状態にならない様、システム同士で送信が可能・不可能のコントロールを行っている。このため、PTTがきかなくなることもある。
2. そのつど、次のCHをきめて移動するため、場合によっては信号のミスにより、希望のCHではない所に移動してしまうことがある。そこで、偽物のUFO信号を送信して、UFO機を誤動作させてしまいます。この機能では、CHメモリー8の内容により、対象となるCHが変わります。

CHメモリー8が	00CHの場合 ……	送信禁止状態にします。
	01CHの場合 ……	移動先のCHをランダムに発生します。
	02～158CHの場合 ……	飛ばす先を固定できます。

リセット状態では、群番号が一致するとそのCHでUFO妨害を掛け、リセット状態に戻ります。

モニター状態では、ATIS信号を受信したとき、群番号が一致すればUFO妨害を掛け、しない場合は、妨害せず、どちらも自動的にサーチ状態になります。

免許番号、群番号、全群番号、着信拒否などの機能と併用して行います。また、一般の機械には信号音は聞こえていますが、UFO信号ですので、解読されたり群番号の一致などにはなりません。

また、送信中に、同じCHにいる自局と同じ群番号のUFOに妨害を掛けることも可能です。

(送信状態から) **MON** キーを押します。(この操作はHOLDの機能とは関係ありません。)

また、モニター状態からは、次の操作により、自動的に相手の群番号で妨害を送信します。

HOLD + **HOLD** ⇒ **o P y -** + **REMOTE** ⇒ **U - (CH)**

CHメモリー8が00CHの場合では、相手のPTT機能をロックしてしまう事ができます。

UFO側では、一時的に送信不可となります。UFO側では、やはり **MON** キーを押すことにより、送信を解除できますが、すでにデジタルモードになってしまっているので、PTTを2回操作すると、ランダムなCHに移動してしまいます。CHメモリー8が01CH以上の場合では、相手を他のCHに蹴飛ばすことができます。

R の表示が点灯している場合 ⇒ サイドワイダーON

切断信号には、256通りの暗証コードが含まれています。そのため、このコードが分からないので強制リセットでは数多くの信号を送信しなければなりません。

このコードは、制御CHでしか送信されません。そこで、制御CHで受信した群番号と暗証コードで切断信号を送信すれば1回の送信でリセットさせることが可能になります。

この機能は、リセット中に受信して待ち受けと一致した群番号、免許番号の、暗証コードを使用して切断信号を送信します。全群番号待ち受けならば、全ての局に対して送信します。

《ワンポイント》

こんなつかいかた

「ある特定の群番号にだけ妨害したい」この場合、ごく普通にその群番号をメモリーして、その群番号だけで待ち受けセットします。そして“追っかけリセット”

群番号のメモリーは10個あるので、10面まで妨害できるということです。

「にっくき“アイツ”だけに妨害したい!!」なんて?はいはい、可能です。

免許番号を吸いとり、免許番号だけで待ち受けをセットします。あとは“追っかけリセット”

「自分の仲間以外に妨害したい」?はい、できます。妨害したくない群番をメモリーし、それを待ち受けセットして、着信拒否(38項参照)をかけます。あとは“追っかけリセット”

なお、くれぐれもパワーをかけて使用しないで下さい!

(うかうかしていると、すぐに捕まりますよ!)

40. UFOへの妨害 その2

U-F-Oでは、その待ち受け設定にムリがあり、たとえばメモリー4とA-CODEは、1ヶ所の待ち受けで行っています。このため、メモリー4は待ち受けたいが、A-CODEは必要ない場合に問題が生じます。

ここでちょっと意地悪に特定群番号で、ピンパシリコールを掛ければ、U-F-Oは4面までしか待ち受けできない事になってしまいます。ですが、ノーマルを使用している方々にも迷惑ですね。

そこで、BELL機能を使って特定群番号の呼び出しを行ってしまいます。

以下の操作はリセット状態から行った場合です。

HOLD + **HOLD** ⇒ **CoPY-** + **REMOTE** ⇒ **R-bEP** ⇒ **_R-cod**

以降は、自動的に番号を切り替えながら、BELL呼び出しを行ってゆきます。

UFO信号ですので、解読などはされませんし、ノーマルの機械を呼び出してしまうこともありません。

リセットを押すことによって中断できますが、表示群番号が変わっていますので、御自分で元に戻して下さい。

41. ポケットベル機能 (BEEPER)

メモリー0~9までの群番号で、同一の群番号を待ち受けしている局との間で、ATISの信号により個別の呼び出し音を発生させます。(特定群番号でもできますが、以下にあるように設定は避けるべきです。)発信した側も、その信号が相手に正しく受けられたかどうかを表示します。

(リセット状態から) **CALL** + **MON** ⇒ **cbEEP-** + **0** ~ **9E** ⇒ **群番号表示**

以降、10秒に1回のリコールを行います。相手を受信した場合、受信側は発信側に自動的に受信した返事を返します。この時、以下の表示が出て、リセット状態に戻ります。

uCRtCH (ビービーの動作音)

自局が呼び出された場合、返事を相手側に返して、その呼ばれた番号を表示します。同時に呼ばれた番号によって、動作音を発生させます。本体がマイクのリセットを押すと止まります。30秒間リセット入力がない場合、ストップウォッチモードになります。

!bEEP! (メモリー1で呼ばれた場合……30秒後) ⇒ **!ooooo** (カウント開始)

bEEP (表示群番号、又は特定群番号で呼ばれた場合) ⇒ **_ooooo** (カウント開始)

ごまちゃんⅡ、Ⅲ との互換性がありますので、お互いのBELL機能としても使用できます。

42. セミデュプレックス機能

送信と受信の周波数を別々に設定する機能です。これによりパーソナルで本格的なレピーターも可能でしょう。

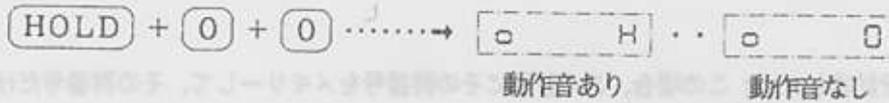
HOLD + **MIC END** ⇒ **dUP** (再度OFF)

チャンネルメモリー0のCHが受信周波数、メモリー9のCHが送信周波数になります。

43. 動作音の変更機能

キーの受付動作音の大きさを変えます。HOLDに続いて、0のキーを数回押すことにより、大、小、消しの状態

が交互に現れます。



44. 群番、CHロック機能

メモリー1に記憶させている群番号、モード、CHでロックをかけます。ただし、送信に移る場合に動作します。それ以外の操作では通常通り行えます。



通常の動作とは、モニター、リセットなどの無線機の状態から、メモリーの切り替え、群番号の打ち替え、CHメモリーに関すること、その他もろもろの操作も受け付けます。

ところが、送信状態になったとたん、すでに変わっているはずの以前の内容に群番号、CHとも変更されます。これは、“HOLD” + “C”の操作を行った瞬間に、その内容を別の状態で内部に取り込んでいるからです。いったん取り込まれたデータは、再度“HOLD” + “C”でロックを解除するか、ノーマル状態になるまで変更されません。

45. デジタル秘話機能

秘話装置には、音声をその周波数を反転させて、内容が判別出来ないようにするものが良く使用されていましたが、最近になってデジタル方式の秘話が実用化されました。(警察無線など)

この方式は解読することが非常に困難で、その秘匿性が高いものです。また、無線では別の方法で、同様に秘匿性の高い方式があります。これは、1対1の通信を行う場合、非常に広い周波数帯域を使用して行うものです。

A. 周波数拡散方式.....これは送信時の周波数帯域を非常に広くとり、個々の周波数に情報を分散させ相手に送るものです。しかし、無線機自体に専用の機構が必要なので非常に高価です。

B. 周波数時分割移動方式.....すでにアメリカなどでは業務実用の段階にあるようですが、周波数を移動しながら必要な情報を相手に伝えます。しかし、送り、受け側ともに周波数が同期して移動できなければ内容の再生ができません。周波数がどのように移り変わっていくかが分からないと解読は非常に困難です。

◎ パーソナル無線機は内部にマイクロコンピュータを持ち、ATIS信号で、無線機同士の情報交換ができます。このことを利用して、B.の“周波数時分割”による秘話が可能になります。

実際の動作としては、CHメモリー0~9に記憶させてある周波数を一定時間で順次移動してゆきます。

まず、どの周波数を使用するかを決めます。→CHメモリー0から9まで使用するCHをメモリーします。相手側も同じ順にメモリーさせる必要があります。



メモリーさせてあるCHの表示が順次変わってゆきます。

そして、1週ごとに同期をとるため、送信側からATIS信号を送信します。



また、受信状態になっている場合は、相手からのATIS信号を待ち合わせします。

ATIS信号を受信し、その群番号が自局のものと同一の時、内部のタイマー合わせをして、周波数を切り替えてゆきます。ほぼ、2秒おきの周期でCHが切り変わってゆきます。

切り変わった周波数が使用中でも、妨害するもの、されるもの、2秒間だけです。

メモリー0に割り当てるCHは、同期のためのATIS信号が送信されますので、なるべく混信のないCHを選んで下さい。もし、同期がはずれたら(相手の声が聞こえなくなったら)次の同期まで、送信を控えます。一回りで20秒ですから、最大でも20秒間で復帰できます。

通常の無線機機能に戻るには、本体かマイクの“END”キーを押します。(戻った場合、無線機の表示状態がおかしい場合がありますが、メモリーなどは消えていません。)

《ワンポイント》

なお、この機能はあくまで“デモサンプル”的なものです。そのため、周波数10波と少なくなっています。

46. 居眠り防止機能

送信状態の最大時間を設定できます。これにより、ロックマイクなどで送信しっぱなしの居眠りを防止できます。時間になると送信を中止し、警告音で知らせます。

設定は5分きざみで75分までできます。00表示の場合は制限なしとなります。

(HOLD) + (PTT) ⇒ [SLP00] + (1M) で 5分づつダウン

(HOLD) + (PTT) ⇒ [SLP00] + (2M) で 10分づつアップ

(HOLD) + (PTT) ⇒ [SLP00] + (3M) で 5分づつアップ

(HOLD) + (PTT) ⇒ [SLP00] + (4A) で 10分づつダウン

送信状態のまま10分経過すると [SLEEP] の表示とともに警告音を鳴します。PTTを放すと、群番号表示に戻り通話を続行できますが、再度、10分以上送信が続くと機能します。

47. 見回り機能

CHメモリー0～9に記憶したCHを見回る機能です。他の機種では、これをプライオリティと読んでいるものが見られますが、真の意味でのプライオリティとは本人が気にしないでも、CHを点検することなので、この場合“見回り”と名付たほうが正しいと思います。受信、もしくはリセットの状態から

(HOLD) + (SHIFT) ⇒ [0_ _ _ _] ~ [00_ _ 34] ~ [05_ 7_ 9]

のように表示されます。この状態から、SHIFTを押すことにより、0～4/5～9を交互に表示します。また送信状態からは、SHIFTを押すだけで確認できます。

◎その他の特殊機能

48. 他群番お知らせ機能

(M) + (PTT) → 通話中に(送信中以外)他の群番号(待ち受け以外)が、CHに入ってきたとき、音がでて、他群番の割り込みを知らせます。(機能動作中MONが点滅)
通話“S-CH READY”……この状態のときに作動します。

49. 切断信号機能

セットしている群番号で切断信号を送信します。ここでいう切断信号とは、自局に暗証番号のない場合のことです。暗証番号が分からないため、すべてに該当する番号の信号を送信します。送信終了まで約2分間かかります。

(M) + (SHIFT) → [Cut] → / (TX) のランプが点灯し、Sメーターが揺れっぱなしになる。

また、通常の切断信号(通話状態から、自局と同じ暗証番号を持つ局だけをリセットさせる)を送出する場合には、本体側の“END”キーを1秒間以上押します。この場合は、自局の持っている暗証番号のみで送じます。

50. 送信、受信レベル切替機能

5W <-> 0.2W受信感度低減を切り替えます。

(M) + (MIC END) → 表示パネルの0.2W RXL が交互に点灯、消灯します。

ランプの点灯状態に応じて送信、受信も切り変わります。(ノーマルの説明書参照)
また、通話モードに入れば、マイクの“SHIFT”キーを押すだけで切り替えられます。

◎マイクキーの機能（マイクのキーの機能は、状況に応じて機能が変わります。）

	REMOTE	SHIFT	END
リセット	表示群番号の切り替え	通話ゾーンの切り替え	前回より1CHアップしてモニター (押しっぱなしでサーチ) ※1
補 足	そのCHに固定	そのCHに固定	リセット ※2 (押しっぱなしで切断信号送出)
モニター	-1CH ダウン (押しっぱなしでサーチ)	+1モード アップ	リセット
通 話	リコール (押しっぱなしで連続 リコール)	送信出力、受信感度の切り替え	リセット (押しっぱなしで切断信号送出)
送 信	リコール (押しっぱなしで連続 リコール)	見回り機能	パワー温度 電圧表示
モニター サーチ	-1モード ダウン	+1モード アップ	サーチ ストップ

※1 リセットから、マイクの“END”キーを押しますと+1CHモニターになりますが、この時にキーを離さずに1秒以上押さえ続けていると、サーチに移ります。

※2 “END”キーで切断信号を送信した場合、“ピリリ・ピリリ”という動作音で知らせます。

◎モードの切替機能

モードの切り替えは、**2M** または、**5b** のキーを使用して瞬時に切り替えられます。

操作は、リセット中、モニター、レディ、送信中、いずれからでも可能です。

○数字キーについて

数字キーは、ノーマルの場合、待ち受けの設定、解除をダイレクトに入力するために使用されましたが、ドラゴンVでは完全16面待ち受けのため、キーが足りずに別方法となっています。

数字キーについては、GV SFXに準じています。

1M から **6L** のキーには、CH及びモードを動かす機能があります。

7H から **0** のキーには、リザーブに関する機能があります。

キーパネルの各機能		
現在のCHより -1 CHダウン (1M) 押しっぱなしでサーチ	現在のモードより +1 モードアップ (2M)	現在のCHより +1 CHアップ (3M) 押しっぱなしでサーチ
現在のCHより ハーフCHダウン (4A) 押しっぱなしでサーチ	現在のモードより -1 モードダウン (5b)	現在のCHより ハーフCHアップ (6L) 押しっぱなしでサーチ
リザーブを ひとつ戻す (7H)	リザーブを 呼び出す (8P) (1秒以上押す)	リザーブを ひとつ送る (9E)
リザーブに 記憶させる (0) (1秒以上押す)	(C)	(M)

ドラゴンVでは、アップサーチ、ダウンサーチの他に、ハーフでのサーチも可能になっています。

本体の (4A) または (6L) のキーを1秒以上押しっぱなしにしてみてください。

また、マイクのキーや、本体の (1M)、(3M) など、同様に1CHずつのサーチもできます。

そのほかの機能的な面は、ほとんどGV SFXと同等です。

《ワンポイント》

こんなつかいかた

CHがハーフずつ移動できることを利用して、他の無線機が周波数がずれていた場合、基準となる周波数より、高いのか、低いのか簡単なチェックができます。
ただし、ドラゴンVの周波数をきちんと合わせておく必要があります。

◎ チャンネルについて

キー操作によるCH設定の場合は、00CH～159CHまで可能です。

本機には今まで新モードの無線機では出られなかったCHに送信、受信が可能となりました。

00CH → 01CH (制御CH) と02CHの間です。

これは、制御CHでの制御信号の安全性 (混信など) を保つため、25 KHzのスペースがあります。

159CH → 80CHのハーフ上です。

上記と同じく、ダウンモードの80CHと、ノーマルの制御CHの間は、25 KHzのスペースがあります。

(モニタースキャンの場合は、制御CHの01CHは受信しません。)

ただし、制御CH (01CH) の送信はできません。また、モード5, 6, 7は、極度に周波数が離れているため、無線機本体の性能により、送信できない場合があります。また、送信していても、安定した電波であるかは不明です。このため、この周波数帯での送信は極力行わないで下さい。

◎ チャンネルの切替機能

CHの切り替えもモードと同様、**1M**、**3M**、**4A**、**6L**のキーで瞬時に切り替えられます。

モード 0	ノーマルモード	903~905MHz	ノーマル
1	ダウンモード	901~903MHz	
2	Wダウンモード	899~901MHz	
3	トリプルダウンモード	897~899MHz	
4	フォースプライベートモード	895~897MHz	
5	ファイブプライベートモード	893~895MHz	
6	シックスプライベートモード	891~893MHz	
7	セブンプライベートモード	889~891MHz	

51. 切断信号を受信した場合

本機はスペシャルですから、当然受信してもリセットにはなりません。しかし、通話している仲間が全てスペシャル機とは限りませんから、リセットしてしまう可能性があるわけです。そこで、切断信号を受信した場合、次のような表示で知らせます。

r-[U] 同時に“ピッ”という動作音もします。10秒後に群表示に戻ります。

この表示がでたなら、すぐにリコールを打って呼び戻してあげるとよいでしょう。

51. 特殊オプション群番号機能

新モードの機種には、新たにA, B, H, L, P, Eなどを頭文字にした特殊群番号が設けられていますが、実際にはそのような文字のコードの信号が出ている訳ではなく、すべて数字の“0”からアルファベットの“F”までのコードで送られています。

FF000	→	E-CODE	このような構成になっています。規則性とは、先頭が“F”であること、E-CODEを除いて、中が“00”であることのようなのですが、まだ空きがあります。
F0000	→	P-CODE	
F0003	→	H-CODE	
F0005	→	L-CODE	
F0006	→	A-CODE	
F0009	→	B-CODE	

そこで、ドラゴンVでは、勝手に空きのコードにコードネームをつけてしまいました。

F0001	→	N-CODE.....
F0002	→	Y-CODE.....
F0004	→	r-CODE.....
F0007	→	T-CODE.....
F0008	→	G-CODE.....
F000A	→	U-CODE.....
F000B	→	-CODE.....
F000C	→	C-CODE.....
F000D	→	d-CODE.....
F000E	→	F-CODE.....
F000F	→	O-CODE.....

↑各自で好きなコード名をつけて下さい。↑

これらの群番号は、あらかじめメモリーにある訳ではなく、そのコードに該当する群番号を打ち込むと、上記のように表示されるものです。

入力例 **M** + **メモリーさせるNo.** + **C** + **MIC END** + **0** + **0** + **0** + **末尾**

末尾に該当する部分に、0~Fの文字にあたるキーを押せば、上記に記してあるコードが表示されるはずですが。特に、Y-CODEなど、どんな通信目的に使用されるかは、推して知るべし。大いに利用して下さい。また、他の機種では当然表示されませんので、あまり意地をはらないように……

◎ リザーブメモリー機能

- リザーブメモリーとは、一種の裏メモリーです。ドラゴンVでは、1280にも増えたすべてのCHを、十分有効に使用するのには、困難なほどになりました。そこで、リザーブメモリーを活用して、ある程度のCH、群番号の管理を機械に任せてしまおうというものです。
- A. 普通のメモリー（“REMOTE” キーで切り替える）とは、全く別のものです。
 - B. このメモリーに入っている群番号では、待ち受けは出来ません。
 - C. 群番、CH、モードがワンセットになっています。群番号だけ、CHだけなどの変更はできません。
 - D. ワンタッチで、記憶させられます。
 - E. ワンタッチで、記憶させた状態に飛び移ります。（周波数、群番号がいっぺんで切り変わる。）
 - F. リザーブできる数は、8個までです。9個目を入れようと最初の1個が消されてしまいます。あらかじめセットしておき、CHからCHへ、瞬時のQSY（CH移動）に、また多数のグループとの掛け持ちQSOも、らくらく、OKです。
- リザーブメモリーの使い方としては、以下の4通りがあります。
- A. リセット待機中、呼ばれた群番、CH、モードを記憶して、リセット状態を続ける。
 - B. リセット待機中、群番解読で、次々表示される群番号をためておき、希望の群番号のところまで後戻りさせる。
 - C. モニターサーチを行い、待ち受けと同じ群番号を見つけたら、その群番、CH、モードを記憶してスペシャルサーチを続ける。
 - D. 自分であらかじめリザーブメモリーに記憶しておき、そのCH間を自由に行き来する。以下に、それぞれの機能の組み合わせ方法を例として記します。なお、スペシャル機能には、すべてOFFの状態からセットするものとします。また、群番号のメモリー及び、待ち受けの設定はされているものとします。

○1 リセット中の留守番機能

まず、タイマーは動作させます。 $\text{HOLD} + \text{M} \rightarrow \text{0 6-00}$ (CUTの表示の場合は再度行う。)

自動リザーブ機能をONにします。 $\text{HOLD} + \text{2M} + \text{3M} \rightarrow \text{H2 3}$

以上をセットしてリセット待機すれば、自動的に呼び出しを受け30秒後に、その群番、CH、モードを記憶し、リセット状態に戻ります。

7H のキーを押すことにより、たまっていた群番号が表示されます。

希望する群番号の表示された時に、 8P のキーを1秒以上押しますと、そのCHに移ります。

○2 リセット中の群番戻し機能

自動リザーブ機能をONにします。 $\text{HOLD} + \text{2M} + \text{3M} \rightarrow \text{H2 3}$

全群番号をリザーブ機能をONにします。 $\text{HOLD} + \text{2M} + \text{4A} \rightarrow \text{H2 34}$

群番解読機能をONにします。 $\text{HOLD} + \text{6L} \rightarrow \text{0 6}$

以上をセットしてリセット待機すれば、次々表示されてくる群番号を後戻りさせて、そのCHに行くことができます。ただし、9個以上前の信号は戻せません。

7H のキーを押すことにより、たまっていた群番号が表示されます。

希望する群番号の表示された時に、 8P のキーを1秒以上押しますと、そのCHに移ります。

○3 スペシャルサーチリザーブ機能

スペシャルサーチ機能をONにします。 $(\text{HOLD}) + (2\text{M}) + (2\text{M}) \rightarrow \boxed{\text{H}2\ 2}$

自動リザーブ機能をONにします。 $(\text{HOLD}) + (2\text{M}) + (3\text{M}) \rightarrow \boxed{\text{H}2\ 23}$

群番解読機能をONにします。 $(\text{HOLD}) + (6\text{L}) \rightarrow \boxed{\text{C}\ 6}$

以上をセットして、モニターサーチをかければ、待ち受け群番号と同じ群番のCH、モードを記憶して行きます。なお、リセットをかけるまで行いますので、出かけている間に、仲間のいるCHを調べておけます。ただし、9個以上前の信号は戻せません。

(7H) のキーを押すことにより、たまっていた群番号が表示されます。

希望する群番号の表示された時に、 (8P) のキーを1秒以上押しますと、そのCHに移ります。

◎ リザーブのしくみ

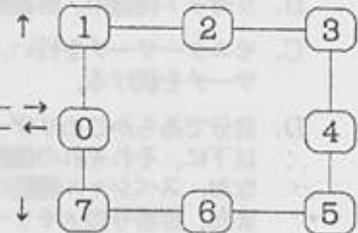
リザーブメモリーには、0~7までのナンバーがついています。

(7H) のキーで、出入できるリザーブを一つ戻します。

(0) のキーで、使用中のCH、群番をリザーブします。(1秒以上押す)

(8P) のキーで、リザーブを呼び出します。(1秒以上押す)

(9E) のキーで、出入できるリザーブを一つ進めます。



リザーブ関係の操作を行った場合、 $\boxed{\text{r c = 00}}$ と表示がされます。

これは、現在中央に表示されたナンバーのリザーブに入出力可能という意味です。そして、そのリザーブに記憶されている群番号の表示をします。

メモリーのナンバーを示す所が、“r”の文字になります。(例 12345) $\rightarrow \boxed{\text{r}\ 12345}$

3秒後に、通常の群番号の表示に戻ります。(例 MO-00000) $\rightarrow \boxed{\text{C}\ 00000}$

◎ リザーブを呼び出す

普通の状態、 (7H) と (9E) のキーを押すと、 $\boxed{\text{r c = 00}}$ のような表示が出て群番号が出ます。

ただし、上の中央の数字は、現在のリザーブのナンバーを表わしていますので、0~7までのどれかです。

(7H) と (9E) のキーで、呼び出したいリザーブNo.、または、群番号が表示された時に、 (8P) のキーを1秒以上押します。

すると、リザーブされていたCHに移ります。また、PTTを押すと、自動的にリザーブされていた群番号になっています。

通話が終わってリセットしますと、リザーブを呼び出す前の群番号にもどります。

リザーブを呼び出しても、0~9のメモリーは壊されることはありません。

◎ リザーブに記憶させる

ここでは、自分の希望する群番、CH、モードを指定したリザーブに記憶します。

以下に一般的にありそうな状態の例を、操作の手順をおって示します。

1. まず、機械が勝手にリザーブ機能を動作させないように、自動リザーブを止めておきます。

$(\text{HOLD}) + (2\text{M}) + (3\text{M}) \dots \rightarrow \boxed{\text{H}2\ 12\ 4}$ 3 が消えるようにする。

2. 自分のクラブなどのメイン群番、CHをリザーブ0にセット (例 11CH 12345)

(C) + (1M) + (1M) + (MON) → [0 11]

(C) + (1M) + (2M) + (3M) + (4A) + (5b) → [112345]

(1秒以上押す)

(9E) + (9E) ... → [rc=0=] + (0) → [rc0=] → [r 12345]

3. モニターサーチから知り合いの人にお声掛けしたら、「うちのフレンドが聞きたい事があるって言ってたから、10分後位にまた来て!」と、言われたので、ここもリザーブ。55CHの67890だった。

(9E) → [rc=1=] + (0) (1秒以上押す) → [rc=1=] → [r 67890]

4. もういっぺんサーチしたら聞きなれない“YL”さんの声!「今日は引っ越ししてきて開局です!。」うーん。じゃ、これもリザーブしといて、あとでブレイクしよ〜! (群番 87654)

(HOLD) + (HOLD) + (C) → [,87654] (自分の群番にします。)

(9E) → [rc=2=] + (0) (1秒以上押す) → [rc=2=] → [r 87654]

5. 10分たったので、さきほどのとこに戻る。

(7H) → [rc=1=] + (8P) (1秒以上押す) → [67890] (PTTを握って「おい……」)

6. YLさん、まだやってるかな〜?

(9E) → [rc=2=] + (8P) (1秒以上押す) → [87654] (ありゃ、もういない?)

7. しょうがね〜、いつものポイントでもワッチするか

(7H) → (7H) → [rc=0=] + (8P) (1秒以上押す) → [12345]

この例では、リザーブ0、1、2と記憶させ、1、2、0の順に呼び出していますが、どのような順番でも構いません。使い込んでゆくほど便利になるでしょう。

◎ H O L D の 機 能 一 覧 表

基本操作表

HOLD + 1M + 1M = ON	→ スキャンスピード低速	OFF	→ スピード高速
HOLD + 1M + 2M = ON	→ 全モードスキャン	OFF	→ 単一モードスキャン
HOLD + 1M + 3M = ON	→ メモリスキャン	OFF	→ 順番CHスキャン
HOLD + 1M + 4A = ON	→ 空きCHスキャン	OFF	→ 使用CHスキャン
HOLD + 2M + 1M = ON	→ 全モード待ち受け	OFF	→ 単一モード待ち受け
HOLD + 2M + 2M = ON	→ スペシャルサーチ	OFF	→ 普通のサーチ
HOLD + 2M + 3M = ON	→ リザーブ機能ON	OFF	→ リザーブOFF
HOLD + 2M + 4A = ON	→ 全群番号リザーブ	OFF	→ 一致した群番だけリザーブ
HOLD + 3M + 1M = ON	→ PTTリコール1分	OFF	→ PTTリコールなし
HOLD + 3M + 2M	ON → PTTリコール1分	OFF	→ 1分以上握っていれば
	ON → 1分に1回	OFF	→ 3分に1回
HOLD + 3M + 3M = ON	→ タイマーリコール	OFF	→ 普通のリコール
HOLD + 3M + 4A = ON	→ 多群番リコール	OFF	→ 普通のリコール
HOLD + 4A + 4A =	フィーバーゲーム		
HOLD + 4A + 5b =	拡声器		
HOLD + 4A + 6L =	サウンド機能		
HOLD + 4A + 7H =	ストップウォッチ		
HOLD + 4A + 8P =	目覚まし時計機能		
HOLD + 4A + 0 =	広帯域モード		
HOLD + 5b =	ON → ATIS信号カット	OFF	→ ATIS信号出る
HOLD + 6L =	ON → 群番解読	OFF	→ 群番解読なし
HOLD + 7H =	ON → プライオリティあり	OFF	→ プライオリティなし
HOLD + 8P =	ON → 解読一発モニターあり	OFF	→ 解読一発モニターなし
HOLD + 9E =	ON → 制御信号妨害	OFF	→ 妨害しない
HOLD + C =	ON → CHロック	OFF	→ ロック解除
HOLD + M =	ON → タイマーカット	OFF	→ タイマー動作
HOLD + HOLD + 0 ~ 9E =	群番号コピー		

- (リセットから) **HOLD** + **HOLD** + **HOLD** = 免許番号吸い取り
- HOLD** + **HOLD** + **MON** = 自局の免許番号表示
- HOLD** + **HOLD** + **CALL** = 相手の免許番号表示
- (リセットから) **HOLD** + **HOLD** + **REMOTE** = ポケベル機能によるUFO妨害
- (通話CHから) **HOLD** + **HOLD** + **REMOTE** = 相手の群番号を読取ってUFOの妨害
- HOLD** + **MON** = 全群番号待ち受け → 着信拒否 → 待ち受け群番だけ
- HOLD** + **CALL** = ON → サイドワイダー OFF → 解除
- HOLD** + **REMOTE** = デジタル秘話
- HOLD** + **SHIFT** = メモリーCH見回り
- HOLD** + **MIC END** = ON → セミデュプレックス OFF → シンプルックス
(ノーマル)
- HOLD** + **PTT** = 居眠り防止
- HOLD** + **END** = HOLDから抜ける

◎ 送信中の特殊キー

- MIC SHIFT** = メモリーCH見回り
- 本体 MON** = 同一群番号でのUFO妨害

◎ MON キーのチャンネル指定方法

- MON** = リセットの場合は、前回使用のCH モニターの場合は、スキャン
- C** + **0** から **9E** + **MON** = メモリーCHの呼び出し
- C** + **0** から **9E** のキー2回 + **MON** = キー入力のCHへモニター
- C** + **1M** + **0** から **9E** のキー2回 + **MON** = キー入力のCHへモニター
- C** + **0** から **MIC END** + **3回のCH入力** = モードを含む直接CHモニター

◎ M キーの機能一覧表

M + 0 から 9E	→ メモリーの指定及び呼び出し
M + HOLD + 0 から 9E	→ チャンネルメモリーの書き込み
M + MON + 0 から 9E	→ チャンネルメモリーの呼び出し
M + CALL + 0 から 9E	→ メモリー0からメモリー9の待ち受け設定、解除
M + CALL + C	→ P-CODEの待ち受け設定、解除
M + CALL + M	→ H-CODEの待ち受け設定、解除
M + CALL + HOLD	→ L-CODEの待ち受け設定、解除
M + CALL + CALL	→ A-CODEの待ち受け設定、解除
M + CALL + MIC REMOTE	→ B-CODEの待ち受け設定、解除
M + CALL + MIC END	→ E-CODEの待ち受け設定、解除
M + PTT	→ 他群番お知らせ
M + MIC REMOTE + 12回のキー入力	→ 免許番号の書き換え
M + MIC SHIFT	→ 強制リセット
M + MIC END	→ 送信、受信レベル切り替え

◎ 特殊機能で使用されるチャンネルメモリーとその機能

メモリー0	=	—	プライオリティで確認するCH セミーデュプレックスで受信に割当てられるCH
メモリー1	=		群番、CHロックのとき、ロックメモリーに記憶させるCH
メモリー8	=		UFO妨害のとき、相手を移動させるCH (00CHの場合は、PTTロックをかける)
メモリー9	=		セミーデュプレックスで送信に割当てられるCH

◎ どうすれば？

17局待ち受けをする方法	2ページ
群番号を吸い取る方法	3
CHを固定する方法 その1 CH入力	4
その2 群番 CHロック	16
CHを記録する方法	4
自分を知る方法	4
相手を知る方法	4
他人に成りすます方法 その1 免許番号吸い取り	5
その2 免許番号打ち込み	5
ひとりだけを待ち受ける方法	5 (ワポイント)
連絡を簡単に確実にとる方法	15
モニタースキャンを遅くする方法	8
8つのモードを全部スキャンする方法	8
リセット中を通り過ぎる群番に行く方法 その1 全群リザーブ	9
その2 解読一発モニター	7
個々の群番を探して貯金する方法	8
自動でリコールを打つ方法 その1 PTT	9
その2 タイマー	9
その3 多群番	9
送信、受信をさげる方法	17
送信、受信をずらす方法	15
群番号を読み取らせない方法	6
通話を聞かれなくする方法	16
群番を解読する方法	6
タイマーカット	13
CHを静かにさせる方法 その1 サイドワインダー	14
その2 制御妨害	7
相手を落としたい時 その1 サイドワインダー	14
その2 強制リセット	17
スタンバイコールをする時は	10
電監の取り締まりに合った時	1

◎ 表示状態の説明

表示により、現在どの状態になっているのかを判断する材料にして下さい。

0 12	(MON) ⇒ CH表示状態 (左端の数字はモードをあらわす)
2 12345	⇒ メモリー2の群番号は“12345” (メモリー操作やREMOTEキー)
o 6 8	⇒ “HOLD + 6” と “HOLD + 8” がセットされている
H 1	⇒ “HOLD + 1” の2段設定中 (“H” の表示に着目)
H SUB	⇒ “HOLD + 4” の2段設定中
-	⇒ 目覚まし時計の時間入力 受付中 (誤動作と間違えないように注意)
0- 3	⇒ 目覚まし時計 動作中 (同時に“S-CH” のランプが点滅)
ooooo	⇒ ストップウォッチ
-999-	⇒ フィーバーゲーム
PR_	⇒ 拡声器機能動作中
CoPY-	⇒ “HOLD + HOLD” の2段設定中
CHSEt	⇒ “CHメモリー” 受付中
SEt--	⇒ “CHメモリー” 呼び出し中
SEt-4	⇒ “CHメモリー4” 受け付け、または呼び出し
d~AAAA	⇒ 自局の免許番号 表示中
n~	⇒ 免許番号 入力中
n~AAAA	⇒ 相手の免許番号 表示中
c~AAAA	⇒ 相手の免許番号 吸い取り中
o CUt	⇒ タイマーカット
o t-ON	⇒ タイマー動作
o ALL	⇒ 全群番号待ち受け (リセット状態でも表示)
o n-ALL	⇒ 待ち受け以外の全群番号待ち受け (着信拒否) (リセット状態でも表示)
o CUN	⇒ 通常待ち受け (リセット状態では表示しない)
-Ct-U-	⇒ UFO妨害動作中 (PTTロック/CH蹴飛ばし) (リセット状態でも表示)

_Ct-_A	=> サイドワインダー動作中 (おっかけリセット) (リセット状態でも表示)
_Ct-UR	=> 上記・両方の妨害動作中 (リセット状態でも表示)
_U- (CH)	=> UFO妨害信号送信 (表示のCHに蹴飛ばし)
cbEEP-	=> ポケベル呼出入力中
uCRtCH	=> ポケベル呼出成功
1bEEP1	=> メモリー1にてポケベルで呼ばれた (先頭/末尾のナンバーで呼ばれた)
115000	=> メモリー1にてポケベルで呼ばれ 15分経過 (ストップウォッチと同じ表示だが、先頭桁に呼ばれたナンバーを表示している)
dUP	=> セミデュプレックス動作中 (リセット状態でも表示)
r-CUt	=> 切断信号を受信した (10秒間)
CUt	=> 強制リセット動作中 (送信し終わるまで表示)
rc=3=0	=> リザーブ操作で“3”を選択中 (すぐに次の群番表示に切り変わる)
r54321	=> リザーブ操作でメモリーされている群番号を表示中 (3秒間表示)
SLP00	=> 居眠り防止タイマーセット中
SLEEP	=> 設定時間以上送信しっぱなし
00_2_	=> メモリーCH見回りで、0と2メモリーが使用中

オールリセット

どの機能が作動しているのかわからない時や、全部の機能を消してしまいたい時には、次の操作をして下さい。

ただし、作曲していた曲もメモリーしていた群番、メモリーチャンネル等、全部消してしまいますので注意して下さい。

マイクの **リモート**、**シフト** を押しながら電源をONにする。

この操作でノーマルからスペシャルにした直後の機能がなにも作動していない状態になります。

◎ HOLD の機能一覧表

HOLD + 1M + 1M = ON → スキャンスピード低速	HOLD + 4A + 6L = サウンド機能
HOLD + 1M + 2M = ON → 全モードスキャン	HOLD + 4A + 7H = ストップウォッチ
HOLD + 1M + 3M = ON → メモリスキャン	HOLD + 4A + 8P = 目覚まし時計機能
HOLD + 1M + 4A = ON → 空きCHスキャン	HOLD + 5b = ON → ATIS信号カット
HOLD + 2M + 1M = ON → 全モード待ち受け	HOLD + 6L = ON → 群番解説
HOLD + 2M + 2M = ON → スペシャルサーチ	HOLD + 7H = ON → プライオリティあり
HOLD + 2M + 3M = ON → リザーブ機能ON	HOLD + 8P = ON → 解説一発モニターあり
HOLD + 2M + 4A = ON → 全群番号リザーブ	HOLD + 9E = ON → 制御信号妨害
HOLD + 3M + 1M = ON → PTTリコール1分	HOLD + C = ON → CHロック
HOLD + 3M + 2M = ON → PTTリコール1分	HOLD + M = ON → タイマーカット
HOLD + 3M + 3M = ON → 1分に1回	HOLD + HOLD + 0 から 9E = 群番号コピー
HOLD + 3M + 3M = ON → タイマーリコール	HOLD + HOLD + HOLD = 免許番号吸い取り
HOLD + 3M + 4A = ON → 多群番リコール	HOLD + HOLD + MON = 自局の免許番号表示
HOLD + 4A + 4A = フィーバーゲーム	HOLD + HOLD + CALL = 相手の免許番号表示
HOLD + 4A + 5b = 拡声器	

(リセットから) **HOLD** + **HOLD** + **REMOTE** = ボケベル機能によるUFO妨害

(通話CHから) **HOLD** + **HOLD** + **REMOTE** = 相手の群番号を讀取ってUFOの妨害

HOLD + **MON** = 全群番号待ち受け → 着信拒否 → 待ち受け群番だけ

HOLD + **CALL** = ON → サイドワイド

HOLD + **MIC END** = ON → セミデュプレックス

HOLD + **REMOTE** = デジタル秘話

HOLD + **PTT** = 戻戻り防止

HOLD + **SHIFT** = メモリーCH見回り

◎ 送信中の特殊キー

MIC SHIFT = メモリーCH見回り

本体 MON = 同一群番号でのUFO妨害

◎ MON キーのチャンネル指定方法

MON = リセットの場合は、前回使用のCH モニターの場合は、スキャン

C + **0** から **9E** + **MON** = メモリーCHの呼び出し

C + **0** から **9E** のキー2回 + **MON** = キー入力のCHへモニター

C + **1M** + **0** から **9E** のキー2回 + **MON** = キー入力のCHへモニター

C + **0** から **MIC END** + **3回**のCH入力 = モードを含む直接CHモニター

◎ M キーの機能一覧表

M + **0** から **9E** → メモリーの指定及び呼び出し

M + **HOLD** + **0** から **9E** → CHメモリーの書き込み

M + **MON** + **0** から **9E** → CHメモリーの呼び出し

M + **PTT** → 他群番お知らせ

M + **CALL** + **0** から **9E** → メモリー0からメモリー9の待ち受け設定、解除

M + **CALL** + **C** → P-CODEの待ち受け設定、解除

M + **CALL** + **M** → H-CODEの待ち受け設定、解除

M + **CALL** + **HOLD** → L-CODEの待ち受け設定、解除

M + **CALL** + **CALL** → A-CODEの待ち受け設定、解除

M + **CALL** + **MIC REMOTE** → B-CODEの待ち受け設定、解除

M + **CALL** + **MIC END** → E-CODEの待ち受け設定、解除

M + **MIC REMOTE** + 12回のキー入力 → 免許番号の書き換え

M + **MIC SHIFT** → 強制リセット

M + **MIC END** → 送信、受信レベル切り替え

こんな時は、

○ チャンネル固定の方法

END、**C**、**?** **?**、**MON** ⇒ 表示 **?** **??**

チャンネル
2チャンネルの場合 02 となる
158チャンネルの場合 158

0~7まで、0 通常のモード
他は地下チャンネル

○ モード (地下チャンネル) を変更する方法

2 または **5** のボタンを押して希望のモードにしてください。

0 = 平チャンネル 1~7 = 地下チャンネル

たとえば表示が 0 02 と 1 02 は同じ 2チャンネルですがモードが違うので通話出来ません。

○ 群番を記憶する方法 (メモリー1に記憶させる時は)

M、**1**、**C**、**?**、**?**、**?**、**?**、**?**

↑
1~9まで記憶出来ます

群番号

○ 80チャンネル、158チャンネルの切り替え

リセットの時、マイクのSHIFT (シフト) ボタンを押して表示パネルに80チャンネルを表示させた時は、
80チャンネル その他 I-MIN (1分通話モード)

LOCAL (パワー0.2w受信 4分の1になる) がなにも表示しないようにして使用して下さい。

○ 0.2w、RXL の表示を消すには

緑色のLOCALの表示が点いている時は、上記80チャンネル、158チャンネルの切り替えを見て下さい。
0.2w、RXLの赤い表示がしている時は、通話中相手の声を聞いている時マイクのSHIFT (シフト) ボタンを押して表示を消して下さい。

○ のマークが点灯している時

ノーマル状態 (チャンネルが表示しない状態) では、キーボタンが作動しなくなります。
スペシャル状態ではマイクを握った時に、チャンネル1のチャンネルになります。

HOLD、**C** を押すたびに ON OFF が切り替わります。

○ チャンネル表示がしなくなったら

ノーマル機能になっています。そんな時は、

M、**0** (1秒~2秒間置く。□の点滅が終わるまで)、**C**、**暗証番号**、**HOLD**、**M** と
押して下さい。